

同前に和し奉る（崔恵童）

一月主人笑うこと幾回ぞ

相逢い相値うて且く杯を銜む

眼に看る春色流水の如し

今日の残花昨日開く

一月主人笑幾回 相逢相値且銜杯
眼看春色如流水 今日残花昨日開

解説 この詩は崔敏童の「城東莊に宴す」に唱和したものである。城東莊とは崔恵童の別莊でそこでの宴会の席上で唱和した詩である。

語釈 ※奉和Ⅱ人の詩に合わせて作ること。※主人Ⅱ別莊の主人。作者自身をさす。※笑幾回Ⅱ何回笑うだろうか。※逢Ⅱ両方から行き会う。※値Ⅱちようどそこに出会う。※杯Ⅱ杯を口に含み酒を飲むこと。

通釈 この城東莊の主人は一ヶ月に笑うことが何回あるだろうか。だから、こうした出会いでは、しばらく酒を飲んで楽しもう。眼前にある春の景色は流水のようにどんどん過ぎ去ってゆく。今日、枝に少し残っている花は、きのう咲いたばかりの花だ。